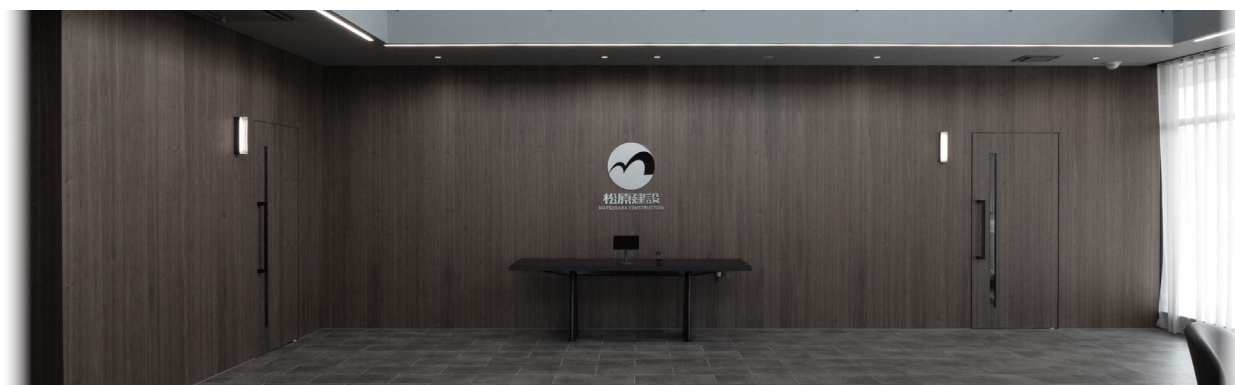


## 都市の骨格をつくる

— まちの未来は、意思ある技術でつくられる —



私たちは、“風景の明日”をつくる。  
人が生きる基盤を、静かに支えている。

私たちは何をやる会社か？

なぜ、私たちは「風景」を語るのかー。

私たちの仕事は、  
「誰かの暮らしが成り立つ条件」を、  
前提からつくることです。

生活の始まりは建物ではなく、  
土地の安全性・つながり・持続性から生まれます。

そして、土地が整った先には、  
人が集い、活かされる“まちの使われ方”を  
どのように設計するかという視点が必要になります。

松原建設はインフラを築くだけでなく、  
その先にある  
“まちの未来の姿”を描きながら、  
実際にかたちにして  
建設 × まちづくりのプロデューサーです。



“価値は、土台の上に成立する”

価値は、土台に宿る「時間」とともに育まれる。

まちは、人の営みを受けとめる“器”です。  
建物が並ぶ空間ではなく、  
人が集まり、関係が生まれ、  
暮らしの時間が重なっていく土台です。

この土地の暮らしは、気候や風土の影響を受けながら  
ゆっくりと形を育てていきます。  
安心して戻ってこられる“場”があることで、  
人は初めて、そのまちに生きる時間を預けられる。

だから私たちは、  
ただ建物を建てるのではなく、  
人の営みを支える“場そのもの”を築くのです。

人が集い、  
心を預けていける場を築く。

**【まちづくり（価値の創造）】**

- └ まちが「どう使われるか」を構想し、未来像を描く
- └ 風景・文化・文脈に沿った企画・設計
- └ 人が集い、楽しみ、行き交う「居場所」のデザイン



**【都市インフラ（価値が生まれる”舞台”を整える）】**

- └ 人が安心して集い、暮らせる前提をつくる
- └ 防災と循環性を整え、まちの営みを支える
- └ 道路・河川・造成・上下水 — 静かな基盤整備

まちが“景色”になるまで

【土台をつくる仕事（都市インフラ）】

- ・行政・住民との調整を通じて、地域に“納まる形”を成立させる
- ・安全・品質・工程を守り、未来まで続く前提条件として実装する
- ・現場での判断と段取りによって地域の「基盤」をつくる



【価値をつくる仕事（まちづくり）】

- ・土地の使われ方を再定義し、未来のイメージを社会に共有する
- ・関係者と合意形成しながら、仕組みを地に下ろす
- ・つくったものが“風景”として社会に根つき、仕事が完成する



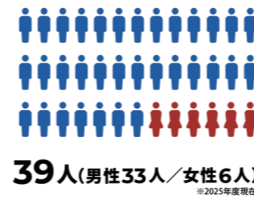
【共通する姿勢】

- ・つくる前に「なぜここに必要か」を問う
- ・未来の住人の視点で判断する
- ・私たちは、建物ではなく「景色をつくる」

松原建設の資本

資本とは、まちを“成立させ続ける三つの力（ヒト・モノ・カネ）”です。

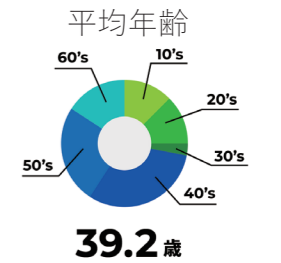
社員数



ヒト＝

【現場で“成立させる人材資本”】

- ・机上ではなく、土地の上で最適解を判断できる人材
- ・行政/地域/技術のバランスをとり“納まる形”を導く力
- ・施工管理＝段取り・合意形成・安全の総合知



モノ＝

【施工を成立させる技術資本】

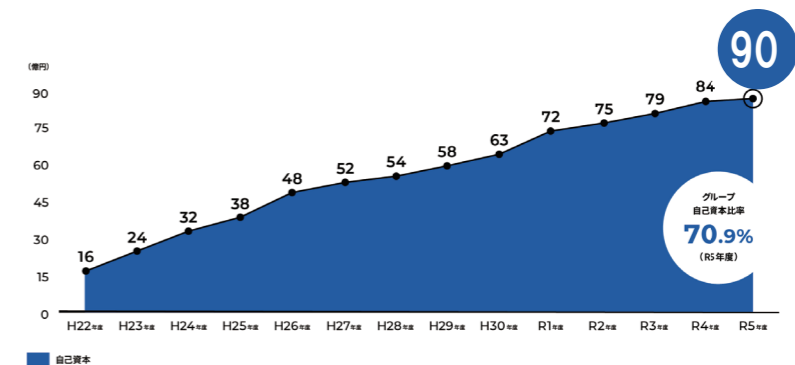
- ・地形や条件に合わせて最適解を導くための ICT / 測量技術
- ・現場の状況を“見える化”し、判断と品質を支える装備・設備
- ・機械そのものではなく、「成立させる力」を支える技術



カネ＝

【未来に投資できる経営資本】

- ・純資産 90 億円は「地域に実在する資本」+「持久力」+「信用力」
- ・不況でも止まらず、未来のまちづくりに先に投資できる力
- ・この資本があるから、“景色になるまで”責任を持てる



## 景色をつくる人の文化



- ・ 図面どおりではなく、“納まる形”を現場で導く文化
- ・ 現場は「指示を待つ場所」ではなく、状況を読み意思決定する舞台
- ・ 安全・品質・工程の判断は、目の前の地域の未来に直結している
- ・ 肩書きではなく“役割”で動く。互いを尊重し、支え合うチーム
- ・ 土地と人に学びながら、その場で最適解を組み立てる力を磨く
- ・ 完成は「終わり」ではなく、“景色として根づくまで”が私たちの仕事
- ・ この文化があるからこそ、松原建設は“まちの骨格”を担える

つくるのは構造物ではなく、“まちの風景”

## 松原建設が求める人

学歴・経歴・性別は問いません。  
私たちが重視するのは「いま何ができるか」ではなく、  
“どんな未来を共につくろうとするか”です。

ただし、歓迎の門が開かれている一方で、  
この門をくぐる人には「まちの骨格を支える責任」が伴います。

失敗してもいい。迷ってもいい。  
けれど、他責にはしない。成長から逃げない。  
そして最後まで「景色になるまで」をやりきる。

ここに集う人は職業人である前に、  
“地域の未来を背負う人”です。  
この先に伸びている道を「自分の責任で歩む」覚悟を持てる人へ。



私たち自身も、“つくる景色”のひとつでありたい

まちの景色をつくる者として、  
自らの拠点も“地域に開かれた景色”でありたい。  
だからこの社屋は建物ではなく、  
“松原建設という思想の器”です。



もっと  
いいまちをつくらせ!

Together, We Build a Better Community.



松原建設  
MATSUBARA CONSTRUCTION CO., LTD.